

『No Regret No Life 後悔なき航海なし』 作・三谷智子

■第一話 低気圧ガール

登場人物

小野 サトシ … スーパーカナリ屋 セツ谷店 生活用品売り場 主任

長門 ヨシエ … 同 パート

広瀬 ナオミ … 同 アルバイト

季節【春、三月下旬。

ラジオから山下達郎の「高気圧ガール」が流れているが、やがて天気予報が変わる。

ラジオの声 急速に発達する低気圧が日本海を東北東に進んでいます。二十八日十八時現在、中心気圧は九六四ヘクトパスカル。中心付近の最大風速は四一、九メートル。これから深夜にかけて東日本北日本の広い範囲で猛烈な雨、強い風に加え、落雷や竜巻にも警戒が必要です。

また交通機関の乱れや、飛ばされた物にぶつかってケガをするなどの危険、災害が予想され、気象庁は不要不急の外出は控えるよう呼びかけています。

ラジオの声は小さくなり、外の風の音が耳につく。携帯をいじっていた小野が大きなくしゃみを一つ。スーパーカナリ屋、生活用品売り場のバックヤード。卓上に紙。鼻をかみ、寒そうに歩き回る小野。パートの長門が入ってくる。長門は小さいトートバッグを持っている。

長門 すごいですよ外。ドシヤ降り。風も強いし。爆弾低気圧って言うんですってね。こういつの

小野 そうなんですか

長門 ええ。でもねえ、こんな日に土を買いに来るお客さんもいるんですよ。鹿沼土を十キロに肥料に腐葉土にプランターにつて。もう私なんてこんな日に考えられないけど。まあ有難いですよねえ。あ、主任、お疲れ様でした

小野 は？

長門 夕方、一階の、陶器市の、ヒョウに当たって割れたって

小野 ああ

長門 あんなのどう考えてもウチの責任じゃないですよ。ウチはちゃんと屋根の下でやるように指示してるんだから。自分が見出してお店広げといてねえ、割れたから文句言うって。おっかしいですよお

小野 …ですよねえ

長門 前からそうなんです。通路は最低でもこのぐぐらいないと危ないっつてたのに。目いっぱい商品並べて。(卓上の紙を取り上げつつ)欲張っちゃって、ねえ...(紙面を見て)…え、これ、弁償するんですか？

小野 や、しませんません。でも

長門 当然ですよ。こっちだって迷惑したんだから。お客さんケガしなくてホントに良かった。必死で片づけたんですからね

小野 ありがとうございます。でも馴染みの業者ですから。ま、僕の方で上手くまとめますんで

長門 (笑)さすが。前のお店の時から、小野さんが一番頼りになるっと思ってました。付いてきて良かった

小野 いや。…あの長門さん、お話って

長門 え？

小野 話があるって言われて待ってたんですけど、何か

長門 あ、そうでした。…これ

バッグからラッピングされたプレゼントらしきものを小野に渡す。

小野 えっ、僕に？

長門 お誕生日、おめでとうございます

小野 ああ、ありがとうございます

長門 全然大したもんじゃないですよ。こんなお天気じゃなきゃね、パートのみんなで、飲みに行っご馳走したいねえなんて言ってたんですよ。でもほら、みんな電車だから

小野 そんな、気いつかわないください

長門の、開けてほしそうな空気に押されて包みを開ける小野。中からはめぐりズム蒸気の温熱シート。そしてユニケル。

小野 おほっ

長門 期末だし、お疲れかなあと思ひまして

小野 嬉しいです。ありがとうございます

小野、袋の中にまだ何か入っているのに気が取り出すと、フェルトで作られたフロッピー。ソラマメの鞆の中に、丸い顔が三つ収まっている。

小野 …かわいい。え、これ

長門 お嬢ちゃんに。手作りですう

小野 ホントですか？ すいません。喜びますよきつと

長門 ふふっ(豆の顔を指し)これが主任で、これ奥さん。これがお嬢ちゃん。

こないだ写真見せてもらったじゃないですか？ アレをイメージして作りました

小野 そうですか

長門 何か、あの写真見たら自分まで幸せな気持ちになっちゃって。ホントだったらウチの息子も、結婚して、子供ができて、主任みたいに二世帯住宅？

小野 ああ(照れ笑い)

長門 建ててくれたりしたかなあって。ま、あの子にそんな甲斐性ないでしょうけど(笑)

小野 いや、僕もローン組んで何とかかんとか。苦しいですよ

長門 お若いのに、ホントにこ立派です

長門、フロッピーを小野の上着の胸につけてやる。

小野 …ええ？

長門 似合っ！

小野 いや、僕が似合っても…お話ってこのことだったんですか

長門 違います

小野 え？

長門 実はその……

小野 はい

長門 もうすぐ棚卸ですね

小野 ええ。今年もよろしく願いします

長門 はい、もちろん。で、それが終わったら…

小野 はい

長門 今期も終わりですね。一区切りです

小野 そうですね

長門 お疲れ様でした

小野 お疲れ様でした。まだ、終わってませんが

長門 そうですよ、まだ終わってません。ねえ、こんな期末の忙しい時に…そのお

間

長門 何故十日間も休むんでしょうか、藤田さんは

小野 あ、そのことですか

長門 家族旅行ですって？ハワイに。悪びれもせず。ちょっと非常識だなんて思うんです。私だけじゃないんですよ。みんなも言ってる。特に決まりはなくても常識として？ 期末は長期の休みを取らないって。暗黙の了解？そういうのがあるんです。トンドン売って、ちよつとも在庫減らして棚卸に備えよう。お店に貢献しようって

小野 助かります

長門 今日みたいに目玉商品の企画だってあるし

小野 ええ。全然売れてませんがね、カナリヤトレットロール

長門 ま、この天気ですから

小野 すいません。僕がもうちよつとこつ、ギョつと出来ればいいんですけど。藤田さんと話していると何か向うのペースに飲まれちゃって。強気でしょあの人(笑)…とか言ってる場合じゃないですよね。藤田さんの売り場も見て頂いてくださいね

長門 いえ、引き受けちゃったのは私ですから。確かに飲まれちゃうですよ、向うのペースに

小野 強気だからあの人

長門 ええ

小野 いや、今度こそガツンと言います。長門さんや皆さんがどんなに苦勞して留守を守ってくれているか。ちゃんと注意しますから。今回は本当に申し訳ありません(深々と頭を下げる)

長門 そんな、別に主任が…頭上げてください

小野 (頭を上げ)ホントにすみません

長門 いえ

小野 あのお、謝りついでみたいで申し訳ないんですが、今日、僕これで

長門 え？

小野 家でコレとコレが

ブローチの、嫁豆と娘豆を指す小野。

長門 …ああ！…お誕生日ですもんね。ごめんなさい、引き止めちゃって

小野 いえ。すみませんこんな時期に。僕も藤田さんのこと言えませんよね

長門 とんでもない

小野 関口がもうすぐ戻りますんで。最後の確認、あいつがやりますから。長門さんもなるべく早く帰ってください。自転車ですか？

長門 はい

小野 そうですか。歩いて帰った方がいいかもしれませんね。気を付けて

長門 ありがとうございます

小野、帰ろうとする。

長門 あの

小野 はい？

長門 …ナオミちゃんって今日来ます？

小野 いや、無理しなくていいって、メールしましたけど。何で？

長門 さつき、土が届いて

小野 ああ

長門 ちょっと多めに発注しちゃって。問屋が明後日まで休みだから

小野 …じゃあ、出しましょうか

長門 あ、いいですいいです。明日出しますから、主任は帰ってください

小野と長門が土を出す出さないでやりあっていると、ずぶ濡れで髪ボサボサの広瀬が入ってくる。

広瀬 おはようございます

長門 休むんじゃないの？

広瀬 休むなんて言ってます

タオルを出して髪や体を拭く広瀬。

長門 …あらあら、濡れちゃったわねえ。大丈夫？

広瀬 はい。傘壊れちゃって。しゃらくせえから捨ててきました

長門 しゃらくせえて。あ、じゃあ落ち着いたらでいいから、品出し手伝って。今日主任誕生日なの。
「家族が待つてるから」

広瀬 そうなんですか。おめでとございます。電車止まっていますけど、帰れます？

長門・小野 ええっ！

小野 マジで？

広瀬 マジで。中央線、武蔵野線、国分寺線、多摩湖線とかも。全部止まっています

小野、携帯を出して調べます。

長門 すいません。私が引き止めたから

小野 ああ、いえいえ

広瀬 あと長門さん、化粧品売り場に女子高生の集団来てましたけど、大丈夫ですか？

長門 えっ、いつもの？

広瀬 たぶん

長門 やだ、藤田さんに怒られちゃう

長門、売り場へ出ていく。無言で髪や首筋を拭いている広瀬。

小野 女子高生つてもしかして万引き集団？

広瀬 …たぶん

小野、自分も行くこととする。

広瀬 残念でしたね。帰れなくて

小野 …無理して来なくていいって言ったのに。電車止まって、どうやって来たの？

広瀬 別に。ぶつうに歩いて

小野 歩いて？学校から？

広瀬 はい

小野 駅四つぐらいあんじゃない

広瀬 そんぐらい歩けますよ

小野 この雨ん中

広瀬 平気ですよ。高校の時、登山部だったんで

広瀬は会話しながらトントント服を脱ぎ、最終的に下着姿で体を拭いていた。右手首に包帯。

小野 …そうなんだ。つてちよつとお…長門さん来たらどつすんの。早く、何か着てっ

広瀬、荷物から替えのTシャツを出して着る。

広瀬 そんなに来て欲しくなかったんですか？

小野 そうじゃないよ。危ないから来るなって言ったんだろ

広瀬 危なくても家に帰ろうとしたんでしょ？

小野 帰るよそりゃ

広瀬 そんなに帰りたかったんですか？

間

小野 帰りたいとか帰りたくないとかじゃなくて。しょうがないだろ。家があるんだから。どうしたそれ

広瀬 火傷

小野 火傷？何で

広瀬 老人ホームに行ったんですよ。学校が経営してる老人ホーム。実習で。実習っていうか体のいいタダ働き？爺さんにシチュー飲ませようとしたら熱いって腕払われて、持ってた皿がドンガラガッシャーンってひっくり返って。シチューがこぼれてベタベタ

小野 あっつ…

広瀬 思わず叫びましたよ。このクソじじい！って

小野 クソじじいはマズいだろ

広瀬 マズいですか？マズいですよね。しばらく実習行かせないって言われました。まあ上等だけど

小野 …ちよつと見してみ。…見してみって

小野が包帯に触れると、その手を振り払う広瀬。

小野 びしょびしょじゃないかよ。包帯。化膿するぞ

広瀬 誰のせいでびしょびしょなんですか？

小野 は？

広瀬 誰のせいでびしょびしょなのかって聞いてんの

小野 何言ってるの？

広瀬 アンタのせいでしょう？こんなにイライラすんのも。火傷したのも。雨に降られるのも。傷が化膿すんのも。全部全部アンタのせいじゃん。私の人生びしょ濡れにして、何シレックスとしてんだよ

小野 ・意味分かんねえよ

広瀬 アンタと付き合うようになってから、悪いことばっか起きる

小野 ちょっと、職場なんだぞッ

広瀬 職場で声かけてきたのアンタじゃん

小野 もーいーいー。どうしたいの？

広瀬 だから帰らないでって言ってんじゃん。一緒にいてってメールしたじゃん何回も。何で無視すんだよ

小野 だから、誕生日だから

広瀬 誕生日だから一緒に居たいってんの

小野 だから！…も〜

小野、座って頭を抱えている。沈黙。風の音が聞こえる。

広瀬 先週の日曜日、ホントに研修だった？

小野 は？日曜？一日中研修だよ

広瀬 ふーん。あたし友達と川越行って来たんだ

小野 え？

広瀬 クレアモールだの大正浪漫通りだの歩いて、何か蔵がいっぱい建つてるところで時の鐘？聴いて。お城見て、お寺で五百羅漢見て、またクレアモールに引き返して、甘味処に寄って。取敢えず主任に聞いたとこ全部見た。超楽しかった

小野 あそう

広瀬 で、帰りにね、新狭山で降りて、その辺散歩してきた。アレでしょ？緑色の屋根の白いウチ。庭広いよねえ。たんぼぼが咲いててさ、女の子がそれ摘んでた。こっやって、ヨイショッ、ヨイショって東ねながら。超かわいいよね。食べちゃいたい

小野 おいっ

広瀬 門に小っちゃいポストがあつてさ、鳥小屋みたいな形。何これ超メルヘンつって友達と笑っちゃつて。ナオミでーすつて手紙入れて帰ろうかと思つてさ(笑)

小野 おいおいおい！

広瀬 入れてないよ。手紙

小野 やめて

広瀬 だから入れてないつて

小野 別れて

広瀬 何で？

小野 何でじゃねえよ

広瀬 何もしてないのに

小野 何かされてからじゃ遅せえから！

間。広瀬、小野のブローチを引きちぎろうとする。小野、広瀬を突き放す。長門が走り込んで来る。

小野 あ、長門さんすいません。万引き犯

長門 警備員さんが来てくれて。ようやく

小野 良かった。行くかと思つたんですけど、話があるつて言われて。品出し、手伝つてあげて

広瀬、無言で品出しに行くとする。携帯をいじりだす小野。

長門 ごめんねナオミちゃん。明後日まで問屋さんお休みでさあ、ちょっと多いの

広瀬 はい

長門 いつも助かるわ

広瀬 いえいえ、でも私に辞めるんで。品出しできるのも今日が最後です。お世話になりました(去る)

長門 …何かあつたんですか？

小野 (携帯をいじりつつ) 学校が忙しくなるからつて

長門 介護の？

小野 ええ。実習が増えて？ 課題も増えるみたいですね。色々大変なんじゃないですか？

長門 そうですか。…電車、まだ動きません？

小野 みたいですね。何か全部…これじゃあ身動き取れないなあ(笑)

長門 本当にすみません

小野 いえいえ、私もやりますよ。品出し

長門 主任、このタイミングで何ですけど、梱卸が終わったら、私も辞めさせてください

間

小野 えっ！何で？…藤田さんのこと？

長門 違います

小野 じゃあ何で？…えー、困るなあ頼りにしてるのに。長門さんなくなっちゃったら。

えー…園芸とかペット部門、分かる人いないし

長門 すいません。主任には本当にお世話になって、感謝しています。落ち込んでる私を見かねて、

このセツ谷店に引き抜いてくださって

小野 見かねてとかじゃなくて、本当に必要な人だから

長門 いえ、「厚意嬉しかったです。このお店で好きな園芸やペット用品に囲まれて、同じ趣味のお客さんの接客をさせて頂いて本当に幸せでした。おかげで気持ちが晴れて、それでようやく、もう一度息子に向き合いたかって思えるようになったんです。あれから四年です。相変わらず連絡なくて

小野 ……

長門 一か八かで探偵事務所に行ってみたんですよ。探偵なんて、テレビでしか見たことないでしょ？みんな汚い屋根裏部屋でやってんのかなって。胡散臭いキャラクターばかりかなって、怖かったけど、行ってみたら普通の会社なんですね。すごく綺麗にしてて、ビックリしました。それで安心して、息子を探してほしいって頼んだんです。そしたらこないだ連絡が来て、沖縄にいるかもしれないって

小野 沖縄？

長門 ええ、沖縄で足取りをつかんだからお母さんさえ宜しければ、一度現地へ行ってみませんかって

小野 …そりや、見つかるのはいい事ですけど、別に店を辞める必要はないんじゃないですか？

長門 もしあの子が沖縄にいたとしたら、あの子なりの訳があると思うんです。東京では癒えない傷が向うで癒されたとか、その場所に居つく理由があると思うんです。私も前のお店に居たらこんな元氣になれなかったと思います。毎日あの子のことを思い出して…。

主任がこつちに呼んで下さったから今があります。居場所ってとっても大切だと思っんですよ。あの子が自分の居場所を沖縄に見つけたのなら、私も一緒に、そこで生活したいと思っんです

小野 気持ちは分かりますけど、もうちょっと冷静に考えた方がいいんじゃないですか？ 沖縄に住むのも東京で暮らすのも、息子さんと話し合ってみないと分からないでしょう。それに、まだ本当に会えるかどうか分からないんだから

長門 ……

小野 すいません。会えるといいと思ってますよ。ただ心配で…あれだ。休暇を取ればいいんだ。

長門さん、有休使ってないでしょう。有休も使って、沖縄だし、旅行を兼ねて羽を伸ばすつもりでいや、真剣なのは分かってますよ。だからこそ、気持ちを軽くして、どっか結果になっても落ち込まずに帰って来れるように…辞めるか辞めないかは色々分かってからでいいじゃないですか。ね

長門 ありがとうございます…。でも、言いにくいんですけど、このお店で働いてたら息子は私と一緒に暮らさないんじゃないかなって

小野 …え？

長門 お店が悪いって言ってるんじゃないんです。自分たちのせいです。でも、事故があつたのは砂川店の目の前で…。同じ系列店ですから外観だっつてそう違わない。あの子のこと思い出すんじゃないかなって。お店の建物と一緒に記憶しちゃってるんじゃないかなって。考えすぎかもしれませんけど

小野、溜息をつく。

長門 すいません。主任には感謝してます。でもやっぱり、息子ともう一回やり直したいんです

館内放送の声 (チャイムが鳴り) 業務連絡いたします。ニイタカヤマノボレ ニイタカヤマノボレ』

長門 えっ、また？

小野 何だあれ

長門 暗号です。チエッカーリーダーに頼んだんです。万引き集団が来たら暗号で知らせてっつて

小野 暗号って勝手に

館内放送の音と声 『イタカヤマンボレ ニイタカヤマンボレ、長門さん、ニイタカヤマンボレです』

長門 そういう訳ですから主任、梱卸が終わったら退職させていただきます！(走り出て行く)とする

小野 え、ちよつと！

広瀬 (走り込んで来て) 長門さん、また

長門 分かってる。(小野に)行って参ります！(去る)

館内放送の音と声 業務連絡いたします。ニイタカヤマンボレ ニイタカヤマンボレ『繰り返し返す』

小野 やめてよもう。戦争かよ

広瀬 …戦争だよ

小野 …は？

広瀬 私たちも、これから、戦争

小野 いい加減にしろよ。バイトだろ？ 品出ししてよ

広瀬 してよ

小野 え？ 品出し？

広瀬 違う。して。今、ここですして

小野 …はあ？ 狂ったの？ ニコスパーだよ。職場だよ

広瀬 じゃあトイレでもいい

小野 じゃあの使い方間違ってるっ

広瀬、小野を引つ張って行く。抵抗する小野。

小野 ちよつ、やめろって

広瀬 長門さんが万引き追い払ってる間に一回べんいできおるべしよ。できぬおちねえ？

小野 広瀬、落ち着いてっ。落ち着け広瀬っ

広瀬 (抱き付き)だつて、待つてたらいつ逢つてくれるか分かんないじゃん。放つたらかしじゃん。放置プレイじゃん。自分から誘つてきてさ、今更何だよ。責任取れよ

小野 え、もしかして…できた？

広瀬 できてねえよ。でもできたつていい

小野 ちよちよ、それは困るよ

広瀬 困んじゃねえよっ

更に抱き付く広瀬。

館内放送の音と声 業務連絡いたします。三階レジ応援願います 三階レジ応援願います』

小野 あれ？どしたんだろ

広瀬 サトシは死ぬの？

小野 は？

広瀬 死ぬの？今日。死なないよね。また何回も誕生日は来るよね？

小野 何の話よ

広瀬 これから何回も来るんだよ誕生日は。そのうち一回ぐらい私といたつていいじゃん

小野 分かった。今度時間作るから

広瀬 今度じゃやだ。誕生日だから一緒にいたい。サトシの一番近くにいたい。一回ぐらいいいじゃんか
抱き付いたまま泣く広瀬。風の音が強くなる。ややあつて、広瀬を離そうとしていた腕を緩め、抱きしめる小野。二人、キスをする。火がついたように積極的になる小野。絡み合う二人。小野が広瀬のブラジヤーのホックを外そうとしていると、長門が走り込んで来る。広瀬を突き放す小野。無言の三人。

小野 違います。アレです。そのえーと何だ。…白髪？ 広瀬、白髪が生えて来たつて。抜いてやろうかと

長門 主任

小野 はい

長門 大変です

小野 ？

長門 カナリヤトイレットロール、シングルとダブル、バカ売れしてます。あと一段しかありません

小野 えっ

館内放送の音と声 業務連絡です。三階レジ応援願います！ 三階レジ応援願います！』

小野 嘘だろ。さっき六段ぐらい積んどいたのに

長門 はい。それがもう、一段しかありません。五段×十六個、計八十個があつという間に

小野 マジかよ、この兩人中！

長門 マジです

小野 分かった。とにかく在庫を出しましょう。広瀬ッ

広瀬 はい

品出ししに行こうとする二人。長門、その腕をつかみ

長門 待って！ さっき見たこと説明してください

小野 ええっ、だから白髪を抜こうとして

広瀬 白髪ですよ長門さん

長門 嘘っ

小野 そんなことより早く在庫を

広瀬 戦争ですよ

小野 戦争です、長門さんっ

長門 そうだけれども無理。気になっちゃって品出しなんかできない。主任、何なんですかさっきのは！

小野 何にもないですよ。長門さんが心配するようなことは

長門 ダメですよ。こんなことしちゃ。奥さんやお子さん裏切るようなことしちゃ。立派な家も買ってお母さんも一緒に、幸せに暮らしているのに。自分で壊すようなこと。家族を悲しませるようなこと

しちやダメなんです。ナオミちゃんもそう。人を悲しませるようなことしちやダメなの。分かんないとか、そういうことじゃないの。分からなくなると、人を傷つけることに変わらないんだから

広瀬 …じゃあ私は傷ついたままでいいんですか？この人の家族は傷いたらダメで、私はいいいんですか？

長門 だってやっちゃいけないことじゃない

広瀬 やっちゃいけないって、犯罪ですか？私、犯罪者ですか？

長門 そうね。これが江戸時代だったら打ち首ね

広瀬 平成だもん。平成だし私だけが悪いんじゃないもん。そっちから言ってきたんだもん。私だって傷ついてきたんだから。私だって被害者なんだからっ

小野 いいから、二人とも品出してよ！

館内放送の音と声 業務連絡、業務連絡、三階レジ応援願います！ 三階レジ応援願います！』

小野 ほら、もう行くよ

広瀬 私、辞めます。サヨナラ

広瀬、エプロンを外し、床に叩きつけて去る。

小野 おいおいおいッ、今辞めんなよ！…長門さん、この件は僕の方でちゃんとまとめますんで。取敢えず、レジ応援お願いします。僕は品出しを

長門 ダメっ

小野 何でっ

長門 追いかけてください

小野 へ？

長門 あの子の家、この近くじゃないですよねっこんな中歩いて。風も強いのに。何か固い物が飛んで来て頭に当たっそのまっ

小野 大丈夫ですよ。来る時も四駅分歩いて来たんですって。高校の時は登山部だったんですって

長門 でも

小野 子供じゃないんだから、帰れなきゃ満喫入るなり何なりしますよ。心配ありませんから

長門 そんなの分かんないじゃない。私が余計なこと言っただけで傷つけて、落ち込んで、いつものあの子じゃないかもしれない。悲しくて、風にあおられてフワフワと、車の前に出たりして、私のせいだ

小野 大丈夫ですって。あいつガッチリしてるから、こんぐらの風じゃヒクともしませんから

長門 絶対に大丈夫なんて言いきれないの。何が起るかわからないの。何かあってからじゃ遅いの！

間。風が吹いている。

長門 私が出します。カナリヤトイレットロール

小野 一人じゃ無理ですよ

長門 大丈夫。シングル、ダブル、合わせて三十ケース。この道二十年、大したことありません

小野 長門さん

長門 私、主任のこと息子の様に思ってたんです。だから主任にお子さんが出来たり、家を建てたり、幸せになっただけのが嬉しくて。関係ないおばさんに、そんなこと思われて気持ち悪いでしょうけど

小野 そんな

長門 だからナオミちゃんのごとは反対です。ウチの子みたいに、大事な幸せ、壊して欲しくないもん。でも、ナオミちゃんが辛いのも分かる。あの時は息子が許せませんでした。でも今は、あの子の気持ちも分かります。……主任、裏切った者も、いずれは絶望の淵を覗くことになりますよ。でも今は、ナオミちゃんを助けてあげてください！

館内放送の音と声 業務連絡いたします。ニイタカヤマノボレ！ニイタカヤマノボレ！』

小野 このタイミングで？

長門 (小さく) どうしよう

小野 ほら、一人じゃ無理ですよ

長門 大丈夫です！万引き犯も、品出しも、私に任せて。早く行ってあげてください！

長門は去る。立ち尽くす小野。

小野 何これ。どうしたらいいの俺。…(携帯を出し、架ける)もしもし、切るな、切るなって。今どい？

…ドンキだな。…分かるよ。だ、だ、だ、だ、ドンキって聞こえてるし。何買ってただよ競合店で。…兩宿り？あそう。あのさ、いつもの店まで行ける？…俺、ドンキの店長に顔覚えられてっから。そこには迎えに行けないから…うん。十分で。いや、風強いから十五分ぐらいいかな。…お前も気いつけるよ。変なもん飛んで来っかもしれないから。じゃな

携帯を切り、そのまま別のところへ架け直している様子。

小野

…もしもし？…あ、うん。大丈夫。でも…そうなんだよ、電車止まっちゃってさあ。

…いやタクシー乗ればって。まあそうなんだけどさあ。仕事も終わらなくてさあ。…うん、そんなんだけど、期末だし。棚卸まであと三日だから。切りのいいとこまでやっとかないとさあ。

…うーん、ごめん。ホントごめん。せうかく準備してくれてんの。…えっ…おおう、何どちたの？ん？…ごめんね、パパお仕事でさあ帰れなくなっちゃった。…えーって、パパもえーだよ。

…ごめんごめん。明日お祝いしよ。ね、明日お祝いして。ごめんさ。…(笑) うん、ありがとう。パパ、頑張りまーッス！…バイバイキーン

電話を切る小野。胸のブローチを見つつ溜息。

小野

頑張りまーッす。って何を

小野、長門がくれたプレゼントの包みを持って去ろうとするが立ち止り、包みからユニケルを出して
— 一気飲みする。音楽。— 『ジエイクス・ブラウン Get Up (I Feel Like Being a) Sex Machine』—

暗転。

■第二話 朝顔』

【登場人物】

栗木 レイジ つくしんぼ保育園 保育士 たんぼぼ組担任
岩井 シュンイチ たんぼぼ組、岩井 カリンの父
坂本 ユミ たんぼぼ組、坂本 マサルの母

季節】夏 七月上旬。

蝉の声と幼い子供たちが遊ぶ声が聞こえている。

そしてゆっくり明るくなると、今はもう夕暮れ時。とある保育園のミーティングスペース。七夕の笹が飾られ、園児たちが書いたと思われる短冊が吊るされている。

栗木 …それは大変でしたねぇ

岩井 他人事みたいに言わないでください

栗木 とんでもないです。本当に申し訳ありませんでした

岩井 子供を産めなくなったりしたらどうするんですか

栗木 え、そんなに？

岩井 医者は大丈夫だって言ってますよ。でもね、お尻にこんぐらの青アザ

栗木 ああ…

岩井 可愛そくに。全く何て子だ。女の子を突き飛ばすなんて

栗木 いや、突き飛ばしたんじゃない、カリンちゃんが転んで

岩井 突き飛ばしてないとしても、怒鳴ったんでしょ？ 相手の子が

栗木 確かにマサル君は怒鳴りましたけど

岩井 怒鳴ったんですよ。マサル君が、大声で、乱暴に。だからでしょっ

栗木 そうなんですけど、偶々後ろに小石があつて、後退したら石に乗っかっちゃったあみたいな

岩井 乗っかっちゃったあみたいな。みたくないじゃないよっ

栗木 すいません

岩井 信じられないのは親ですよ

栗木 …はあ

岩井 ヒトの子にケガさせといて、逆に謝れって、どっという事ですか？ 何考えてんだ

栗木 ですから、お嬢さんとマサル君は

岩井 どういう人なんですか？

栗木 え？

岩井 マサル君の親

栗木 ああ、坂本さんですか？ 坂本さんは、いいお母さんです

岩井 お母さん？

栗木 はい。マサル君、お父さんがいなくて

岩井 …へえー。でも、そんなの言い訳になりませんよね。躰はちゃんとしてもらわないと。こっちだって、父一人子一人、ちゃんとしてるんですから

栗木 もちろん、そんな言い訳するつもりはないと思いますよ

岩井 つたくいつまで待たせるんだよ

栗木 すいません。さっきメールであと十分ぐらいって言ってたんで、もうすぐ

岩井 それも良く分からないなあ

栗木 え？

岩井 何でマサル君のお母さんは栗木先生のメアド知ってるんですか？
僕知りませんよ。ひいきじゃないですか？

栗木 僕のじゃないですよ。つくしんぼ保育園のメアドです。個人的なメアドは教えません。
特別な事情がない限り。

無然としたまま溜息をつく岩井。

栗木 岩井さん、メアド知りたいですか？

間。

岩井 先生の？

栗木 はい

岩井 いいです。ないし。特別な事情

栗木 ですか

岩井 ですね

間。

栗木 あの

岩井 (腕時計を見て)遅いっ！もう女はこれだから。職場にも居るんですよ。しょっちゅう遅刻するヤツ。

何だかんだ言い訳して。で、遅れて来た割には化粧はバッチリ。服装ばっかり気合い入って、仕事には全然身が入らない。注意したらしたで、器が小さいんだって陰口叩いて。理解できない。

女ってのはね、人を待たせてもいいと思ってるんですよ。いやむしろ男を待たせる方がイイ女だとか、我儘イコール可愛いとか飛んでもない勘違いをしてるんですよ。約束は守らないし、自分の感情にばっかり忠実で、人の迷惑顧みないでしょー。平気で人を傷つけるでしょー。

僕はね、男手一つで。男手一つだからこそ、カリンを立派な女性に育て上げますよ。

優しくて思いやりがあつて邪心がない。人を裏切ったり傷つけたりしない、真の女性に育てます。

我儘で自分勝手に傲慢で、男心を弄んでは得意がるような。そんな女には絶対しない！

いつのまにか入口に坂本が来ている。バッチリ化粧し、年齢の割に少し派手とも思える服装にグラサン。

岩井 (坂本に気づき)…時間も守らず外見ばかり着飾ってイイ気になっている。そんな女には絶対しないっ

三人、しばし沈黙。

栗木 坂本さん

坂本 遅くなって大変申し訳ございません

岩井 カリンの父の、岩井です

坂本 マサルの母の、坂本です。仕事で地方におりまして。撮影が押して新幹線を一本乗り

過ごしてしまいました。本当に、お待たせして申し訳ございませんでした

岩井 撮影？

栗木 女優さんなんですよ

坂本 ええまあ。今は、女優というか、声とりポーターの仕事が多いんですけど

岩井 ……そうですか

栗木 どうぞどうぞ

栗木、坂本から鞆を受け取って椅子を勧める。座る坂本。ややあつて

坂本 この度は、お嬢様がおケガをなさって。本当に大変なことでございました

岩井 ……え、大変なことって。事情はお聞きになったんですよ？

坂本 はい

岩井 じゃあ違うでしょう。最初の言葉が「大変な事」ってのはおかしいんじゃないですか？

坂本 はい？

岩井 はい？って何だコラ

栗木 岩井さん

坂本 岩井さんもお聞きになったんですよ？ 事情。レイジさんから

岩井 レイジさん？

栗木 僕です

岩井 ああ

坂本 お嬢さんが尻餅をついた事は大変でした。でもウチの子はお嬢さんに一切手を出しておりませんの。まるで息子が暴行を働いたかのように仰ってるんですけど、ハッキリ言って迷惑です。それより、マサルが負った、心の傷に謝罪して頂きたいわ

岩井 は？

坂本 ウチの子、泣いてました。カリンちゃんが大事な約束を守ってくれないって

岩井 (栗木に)何言ってるのこの人

栗木 すいません。さっき話そうと思ったんですけど。うちの保育園。夏に向けて朝顔を植えるんですよ。二人一組で育てるんです。

岩井 知ってますよ

栗木 それで、カリンちゃんとマサル君と一緒に朝顔を育てることになって

岩井 知ってます

坂本 種を植える時はお嬢さんもそりゃあやる気満々で？二人で協力して育てようって約束したそうですね。でも、水やりとか肥料とか、あと間引き？

栗木 摘芯(てきしん)ですね。育ってきたらツルの上の方をちょん切って、こう、支柱にツルを絡ませる

坂本 その摘芯とやらも、全部ウチの子にやらせて、自分は何もしなかったそうです。他の子は二人一組でお世話してるのに、マサルはたった一人で

岩井 嘘でしょ？一緒にちゃんとやってるって

坂本 いいえ。世話をしていたのはマサルだけです。朝も昼も夕方も様子を見に行って、水をやったり肥料をやったり。来る日も来る日も。その間、お宅のカリンちゃんはずーっと遊んでたって。そしてマサルが注意したら「ウザイ」って言ったんですよ。自分はサボってウザイって。どういふ躰をしてらっしゃるんですか？

岩井 まさか。ウチの子はそんな言葉使いませんよ。家でそんなこと言ったら怒りますし

坂本 でも言ったんです。それがショックで落ち込んで、マサルは三日間、泣き続けたそうです

岩井 ……そうです？

坂本 ええ

岩井 あなたは、見てないんですか？それを

坂本 見ていたのはウチの母です

岩井 母って、つまりお婆ちゃん？

坂本 そうですけど？何か？

岩井 あなたは直接見てないし、聞いてないんですか？マサル君から

坂本 時々地方に滞在してまして、泣いているのは見ておりません。でも愚痴は前から聞いてます

岩井 愚痴って(笑)

坂本 仕事柄、長く家を空けることもあります。でも母から逐一報告をもらって、息子とも毎日電話で

岩井 ちょっと待ってください。そんないい加減な情報で、こっちが悪いって言うてるんですか？

坂本 いい加減じゃありません。お宅の子が約束を破ってウチの子を傷つけたんです

岩本 (笑)信用できないな

坂本 は？

岩井 僕は毎日、どんなに忙しくても最低二時間はカリンと向き合って話を聞くんですよ。

娘はちゃんと朝顔の世話もしてるって言ってたし、息子さんのことを悪くいったりしてませんよ

坂本 でも実際は

岩井 いいですか。子供の話を聞くっていうのはね、ちゃんと顔を見ながらじっくり時間を取らないと意味ないんですよ。電話で仕事の合間にちよいちよい話したって、真実は見えてきませんよ。ねえ先生

栗木 いやまあ

岩井 どんなに忙しくても、絶対に急かしたりこっちの解釈で話を進めちゃあいけない。ただただ聞くんです。子供のペースを乱さずに。大人が忙しそうにすれば、子供だって気を遣って遠慮したり、逆に気を引こうとして大げさに傷ついたフリをして見せたり

坂本 傷ついたフリ？ マサルが嘘ついてるって言うんですか？

岩井 まあそれはマサル君に聞いてみないと分かりませんが。でもアナタは多分、本当の事を分かかってないと思いますよ

坂本 失礼な

岩井 すいません。でも私も同じ境遇だからこそ言うんです。そちらはご主人がいらつしやらないそうですけど、ウチは僕とカリンの二人暮らしです。もちろん私も仕事してます。

でも、仕事の後は必ず手料理を作って一緒に食べます。一緒にお風呂に入って、寝る前には本を読んで聞かせて。休みの日だってもちろん娘より早く起きて朝食を作る。遊びにも連れて行く。それでも僕は、ちゃんと娘の事を理解できてるのかって、自問自答しながら生きています！

坂本 それは、そちらのライフサイクルの話でしょ？こちらにはこちらの事情？やり方があるんです。私は息子にできることは全部やっています。どんなに朝早く出なきやいけなくても、料理は必ず一品は作る。チンして食べられるように。そして、自分が食べるところを動画で録ってマサルがお婆ちゃんとお食べる時にその映像を流してもらいます。せめて一緒に食べている気持ちになるように。

岩井 そんなバーチャルなつ。大切なのは実態ですよ

坂本 アナタのお仕事は時間を作りやすい楽なお仕事かもしれません。

岩井 楽？

坂本 でも、こっちは違うんです。自分の都合で働けないんだから。相手に合わせるしかないんだから

岩井 俺だって自分の都合で働いてる訳じゃないよ！

栗木 あのちよっと落ち着きましようか。親御さんの仕事は置いといて。今はお子さんの話ですから

間。

栗木 あつ、すいません！何か飲み物持ってきますね。何がいいですか？

岩井 結構です。持っていますんで

坂本 私も。持ち歩いてますから

岩井と坂本、棚に並べて置かれている各々の鞆から、岩井はペットボトルを、坂本は水筒を取り出す。岩井が乱暴に戻した鞆が、坂本の鞆に当たる。しばしにらみ合う二人。

栗木 大丈夫ですか？冷静に冷静に

岩井・坂本 大丈夫ですっ

栗木 …じゃあ、僕、自分のを入れて来てもいいでしょうか？

岩井・坂本 どうぞ

岩井、坂本、無言でそれぞれお茶を飲む。二人を不安そうに見ながら去る栗木。沈黙。

岩井 へー、芸能人ですかあ。そうでしょうね。まあ私なんかには想像できない、大変な生活をされてるんでしょねえ。時間も不規則だし、体力も精神力も必要だし

坂本 ええ

岩井　そうですね。私もそれなりに忙しいんで、残念ながらテレビで坂本さんをお見かけしたことは
ありませんけどねえ

坂本　地方局でレギュラー番組を持つてるんですけど、こつちでは放送されてませんから。
あと、声の仕事は洋画の吹き替えなんかが多くて

岩井　そうですね。でもお母様が全面的に協力してくださってるんならねえ。送り迎えもお母様が？

坂本　いえ、ウチにいる時は私が。いない時はマネージャーに頼むこともありますけど

岩井　マネージャーかあ。いいなあ。何か助けてくれる人がいっぱいいて。私なんて両親も離れてるし。
私はない本屋の店員です。あなたほど忙しくはないと思いますが、それでも残業になったりす
ると大変なんですよ。僕しかないから。でもね、僕しかないと思うからこそその責任感
そういうの、生まれると思います

坂本　へ？

岩井　この子には自分しかないんだって。そう思うと何が何でもお迎えに行かなくちゃって。
一緒に「飯食べなくちゃって。そばに居てやらなくちゃって。そういう使命感で生まれますよねえ」

坂本　…何かあなた…ウザイ

岩井　ウザ、それは無いだろう。アンタさっきウチの子がウザイだったってキレたじゃないかっ

坂本　そう言わせる様にしむけるのよ、あなたが

岩井　仕向けてねえよ。僕はただ、子供の立場になってみたらどうかって事を言いたいですよ。
いくら周りに協力してくれる人がいたって、親はあなたでしょ？それを他の人に任せて親本人
が一緒にいない。しょうがないと分かっても寂しい。放置されていると感じますよな？

坂本　放置なんてしてませんっ

岩井　あなたはそんなつもりないでしょう。頑張ってるんじゃないと思いますよ。でも、親が精いっぱい
だからって子供が満足してるかどうかなんて分からないんだ

坂本　じゃあお宅は？娘さんが満足してるって。親の務めを充分果たしてるって言えるの？

岩井　…充分かどうかは分かりません。でも少なくともそちらよりは満足してくれてると思いますよ

坂本　あのね、私はただ忙しくて他の人にマサルを見てもらってるんじゃないの。子供同士だけじゃなくて、
幼い頃から色んな大人に接して欲しいんです。私は状況さえ許せば、マサルを職場にも連れて行き
ます。色んな人と喋って色んな世界を見て、社会性を身に着けて欲しい。人は皆、社会の一員なん

だっつてことを分かつて欲しいんです。今回のことは、マサルに比べてお宅のお嬢さんの社会性が欠如していた。その為に起きた事件だと思えます。

岩井 はあ？

坂本 朝顔の栽培は、みんながやっています。二人一組で育てるのは相手と協力して何かを成し遂げる。そう、社会性の第一歩を養う課題でしょう？ マサルは娘さんと協力しようと思いました。でも娘さんは協力するという考え方が理解できなかったんでしょね。だからサボった。目先の楽しい事にかまけて職務放棄？これが子育てだったら育児放棄ですよ

岩井 娘は充分社会性ありますよ。家では野菜洗ったり洗濯物を畳んだり、私を手伝って

坂本 それはご家庭の中だけでしょ？ 私が言ってるのは身内じゃなくて他者との協力ですよ

岩井 家のお手伝いだっつて社会性の第一歩だよ！

坂本 (笑)レベルがちがう。私はマサルに視野の広い、器の大きい人間に育ててほしいんです。

周りの状況を読んで、人の気持ちを考えながら一番良い道へと民衆を導く。男らしい人間に

岩井 民衆？

坂本 ウジウジと重箱の隅をつついてばかりで目先のことしか見えてない器の小さい男には絶対しない

岩井 …今、当てましたね。器の小さい男「らへん、私にガンと、当てましたね

坂本 当ててません。当てたのはウジウジと重箱の隅をつついてばかりで「らへんです

岩井 当てたんじゃないかっ

坂本 だっつてアナタが余にもジメジメと責め続けるから

岩井 とにかくね、お宅の息子が娘を驚かせてケガさせたんですよ。そのことを謝れっつて言っただけでしょう

坂本 ですから息子は、娘さんに指一本触れてないんです。勝手に転んでケガをしたんでしょう

岩井 勝手に転んだんじゃない！ そっちが怒鳴ったんだ。朝顔の鉢を叩き割って！

坂本 …え？

岩井 聞いてないんですか？

坂本 ……

岩井 人の近くで植木鉢を割るなんて。そりゃビックリしますよ。転びもしますよ。破片で切ったりしなくてホントに良かったよ。何が社会性ですか？ もし大人がそんな事したら警察呼ばれますよ

坂本 ……何でそんな

岩井 朝顔のこと、大切だと思うならそんな事します？ やっぱり会話が足りないんじゃないですか？

放つたらかしにして。息子さんが何考えてるか、分かってないんですよ

坂本 放つたらかしになんか…

栗木がコップを手に戻ってくる。

栗木 すいません。お待たせしましたあ。…冷静に、お話できました？

黙ってお茶を飲む岩井。栗木もテーブルについてコーヒーを飲むとする。坂本も水筒を手にするが、それをテーブルに叩きつける様に置くと、部屋の隅へ行って背を向けてしまう。泣いているらしい。

栗木 全然、冷静に話せなかったんですね。…坂本さん？

栗木が坂本に触れると、振り向いて栗木の胸に顔をうずめる坂本。

栗木 え…

坂本 レイジさん、私悔しいです

栗木 大丈夫ですか？ 坂本さん

坂本 この人、私がマサルを放置してるって言うんです

岩井 そこだけ取り出したら何か、一方的に酷いみたいじゃないか俺がっ

坂本 放置してるなんて、放置してるなんて、一番言われなくなかったのに（泣く）

栗木 （坂本の頭をなでながら）大丈夫です。大丈夫ですよ。そんな事ないですから

岩井 違うんですよ。感じ方の違いだと言っててるんです。坂本さんは忙しい中でやれる事を充分やってらっしゃる。それはそうだと思いますよ。でも、大人がこれで充分と感じれば、子供も充分と感じるかと言うと、そうとは限らないでしょ？ マサル君にとっては、アナタと向き合う時間ももっと必要で、アナタに自分の方を向いて欲しくて、こういう騒動を起こしたのかもしれない。もしそうだとしたら、人様の子供ながら可愛そうだなって

栗木 (たしなめるように) 岩井さん、今はっ

岩井 ……

栗木、泣いている坂本の背中を優しくポンポンと叩いてやる。鞆を取りに行く岩井。

岩井 帰ります。これじゃ話にならない。娘はどこですか？

栗木 たんぼ組の教室です。でも今

岩井 いいですよねえ、女の人は。何かあれば泣けばいいんだ

坂本 男だって同じじゃない！

岩井 ええ？

坂本 男だって同じだって言ってるのよ

岩井 僕は泣いてませんよ

坂本 (栗木に) レイジさん、私、あの子が放ったらかしにされるのが嫌で離婚したんですよ。なのに…

栗木 分かります。分かりますよ、坂本さん。座りましょう

栗木に支えられて椅子に座る坂本。栗木の差し出した意外と可愛らしいハンカチで涙をぬぐう。
岩井も、栗木になだめられる形で渋々椅子に座る。涙を拭きつつ訥々と語り出す坂本。

坂本 ……夫はライターで、家で仕事をしてました。私は…こういう仕事ですから、確かに外出が多い。夫がマサルの面倒を見てくれてました。夫は何かにつけて嫌みを言いました。子供の面倒は俺が見てる。お前は産みっぱなしで放ったらかしだって。申し訳ない。その通りだと思って我慢しました。夫はマサルを仕事部屋に寝かせて、ミルクをあげたりオムツを替えたりあやしたり。その合間を縫って仕事して…って言うんです。でも本当は違ったんです。マサルを寝かせて、別の部屋に女を連れ込んで…。私、偶々仕事が早く終わって、鉢合わせしちゃって…

間。黙ってお茶を飲む栗木と岩井。

岩井 それは…傷つかれたでしょうね

坂本 傷ついたなんてもんじゃない！真っ白です。頭の中真っ白。怒りも悲しみも通り越して声も出ない。夫はそんな私を見て、どうしたと思います？ 泣いたんですよ。びっくりしました。泣きながら 君が外ばかり見て僕のことを見ないからこうなったんだ。寂しかったんだ。放ったらかしにされて僕は辛かったって子供みたいにオイオイ泣くんです。泣いている夫と、それを見て

ポカーンとしている浮気相手の女と私。何なんだこの空間はって思いました。今でも理解できません。自分が裏切っておいて、よくあんな言い訳ができたなって。放置されていたのは、夫を信じていた私と、一人で寝ていたあの子の方です。違いますか？

岩井 まあ

栗木 そう…ですわね…

坂本

マサルは赤ん坊だったけど、知っていたと思うんです。自分が放つたらかきにされてるって。悲しかったんじゃないかと思うんです。だから私、あの子をもう一人にしたくないんです。

私がない時は母に。マネージャーや友達に頼みこんでも、誰かが傍に居てあげる様にしようって。申し訳ないなって思うけど、これでも精いっぱいやってるんです！

更に激しく泣く坂本。栗木、坂本をなだめたりリコップにお茶をついでやったり。

岩井

すいません。そんなに辛い思いをされたとは知らなくて。その、並々ならぬ努力をされているのも分かりました。だからもう泣かないでください

ややあつて、少し落ち着き、お茶をチビチビと飲む坂本。

岩井 ただそれはそれとして、お宅の息子さんが鉢を割って、ウチの子が転んだというのは事実なんですよ

坂本、再び大泣きする。

栗木

岩井さんっ

岩井

違うの。事実を知りたいの僕は！ 正直分からないんですよ。五月でしたっけ？ 種を植えたの

栗木

はい

岩井

種を植えて、マサル君と一緒に育てることになったってすごく喜んでたんですよ。

その前から積木と一緒に遊んだとか、似顔絵を描き合ったとかよく言ってたから、仲のいい子とペアになって良かったなと思ってたんです。確かにここ最近、マサル君の話は出ませんでした。でも、そんなに仲の良かった子に突き飛ばされるなんて

坂本

突き飛ばしてません！

岩井

ああそうですよね。突き飛ばしてはないんでしょうね。でも、何があつてそこまで険悪になったのか

栗木

…何でしょう。見解の違い、温度差ですかねえ

岩井

温度差？ 何の

栗木 朝顔に対しての

坂本 何ですかそれ

栗木 朝顔のペアが決まった時、二人ともすごくはしゃいでたんです。元々仲良しだったから嬉しかったんでしょうね。微笑ましいなあと思ってたんです。毎日二人で様子を見にいったら、水やりをしました。その内、芽が三つ出て、マサル君もカリンちゃんもすごく喜んで芽に名前をつけたんです。シオン、ポンタ、チヨロリンって

坂本 チヨロリン？

岩井 絵本のキャラクターですよ

栗木 ええ、そうです。自分たちは三人のお父さんとお母さんだって言って、大事にしました。

でも、鉢に植え替えるのは元気のいい一本だけなんです。三人のうちどの子を残すか、そこで意見が割れたみたいです。カリンちゃんは元気なポンタを残そうと言って、マサル君は葉っぱがキレイなシオンちゃんを残そうって言ったらしいんです。最終的にシオンちゃんを鉢に植えました

岩井 娘が身を引いたってことですね？

栗木 さあ。どんな形で答えを出したかは分かりません。でも、鉢に植え替えた後から、何となく二人の関係がおかしくなったみたいで。マサル君は、自分が推したシオンちゃんを何としても元気に育てたい。枯らしたくないって必至だったんですね。そりやもう朝昼夕方、しよっちゆう様子を見にいったら

坂本 面倒見のいい子ですから

栗木 ええ。でもちよつと神経質になり過ぎちゃったのかなあ。カリンちゃんの水やりの仕方が乱暴だっただけ注意しました。まあ実際、ちよつと乱暴だったんですけど(笑)

岩井 カリンのどっこが乱暴なんですか

栗木 ジョウロを取りに行くのが面倒で、自分のコップに水入れてジャーってかけるんですね。勢いよく。そしたら土がえぐれちゃって

坂本 あらあら

栗木 マサル君はそれが気に入らなくて、カリンちゃんが水をやる度にえぐれた土を盛り直して。水をやっちゃあ盛り直し、水をやっちゃあ盛り直し。何か餅つきみたいで(笑)

岩井・坂本 ……

栗木 すいません。で、カリンちゃんは段々朝顔に近寄らなくなって、他の子と遊ぶようになったんです。

マサル君はマサル君で更に朝顔に執着して。水や肥料をやり過ぎて枯らしそうになってました。朝顔なんて日向に置いて、夏でも二回ぐらい水やればいいんですよ。割りと簡単なんですけど

坂本 教えてくだされば良かったじゃないですか

栗木 もちろん指導しました。あんまり大事にし過ぎちゃいけないよ。程ほどでいいんだよって。でも…

坂本 でも？

栗木 言うこと聞いてくれなかったんですよ。意地になっちゃったんでしょうね。カリンちゃんが自分から離れてつたのが面白くなって。何がなんでも立派に花を咲かせてやろうみたいな。

昨日、昼休みに中庭に居たら、マサル君が鉢を持って来ました。蕾はしぼんだまましおれて、葉っぱも先の方から茶色くなって枯れちゃって、これはもうダメだなあと思いました。

マサル君、一言 死んじゃった」って言いました。で、そこに何ともタイミング悪くカリンちゃんが走り出てきて。蓮くんと翔太くんと鬼ごっこ始めたんですよ。もうキャッキヤとじゃれ合って。ヤバいと思った瞬間、マサル君、植木鉢を持ったまますごい勢いで走って。ガシャーンって

岩井 割ったんですか？

栗木 はい。カリンちゃんはびっくりして転んじゃって。

マサル君は朝顔のこと、一緒に育てようねって言ったのに、「」って叫んで、泣いてしまったんですよ。そしたらカリンちゃんも泣き出して。二人の間で、せっかく育てた朝顔が土まみれになってました。その朝顔見たら何かこっちまで泣けてきちゃって。いや、泣いてる場合じゃないんですけど、担任の僕がついていながら止められなくて、本当に申し訳ありませんでした

沈黙。

栗木 とつても仲のいい二人だったんですよ。朝顔を一緒に育てるまでは

ペットボトルのお茶を飲む岩井。奥のカーテンが開き、誰かが岩井と坂本を呼ぶ。それはマサルとカリン。が、実際には子供たちの姿は見えず、声も聞こえない。

坂本 マサル

栗木 どう??お船はできた??

マサル・カリン できたー!

栗木 そっか。じゃあパパとママにも見てもらいたいね

マサル・カリン うん!

栗木 マサル君とカリンちゃん、積木で船を作ったんですよ。それに乗って、一緒に冒険するらしいです

岩井 え…

栗木 最初は別々の教室で先生と遊んでたんですけど、カリンちゃんがマサル君のどこに行くって。それで

岩井 そうですか

マサル ママ！

坂本 うん？

マサル おフネ、見に来てよ

坂本 分かった。見に行く。…アナタがカリンちゃん？

カリン はい。初めまして

カリンの仕草に思わず笑う坂本と栗木。坂本、子供たちのそばへ行く。

坂本 こちらこそ、初めまして。お利口ね。…マー君と、これからも仲良くしてあげてね

二人の手を取る坂本。そしてマサルに引っ張られる様にしてカーテンの外へ走り出て行く。

坂本の声 マサル、走らないで。ほらカリンちゃんが転んじゃうわよ！

問

岩井 子供はいいですね。溝が出来てもまた仲良くなれる

栗木 大人は難しいですか？

岩井 朝顔のこと、一緒に育てようねって言ったのに、か。…私の妻は、図書館司書だったんですよ。私、こっぴど見えて本が大好きで。まあそれもあって本屋の店員やってるんですけど。図書館にもよく行きました。行きつけの図書館で彼女が働き出して。それからは本じゃなく彼女に会う為に行ってたようなもんでした。二年間ぐらい全く話しかけもせず、ひたすら本を借りました。今思ってもあの頃の読書量が一番すごかった。で、ある日決心したんです。閉架書庫って分かります？

栗木 ええ。倉庫や何かに仕舞ってある

岩井 はい。読みたい時にカウンターで請求して本を出してもらっんです。申請書を書くんですよ。こんな小っちゃい。それを三枚書いて、そのうち一枚のタイトルに「あなたが好きです」と書きました。

それを一番下にして、彼女に本を請求したんです

栗木 ロマンチックですね

岩井 や、もうそれやっちゃった後は恥ずかしくて恥ずかしくて。何でこんな事したんだろうって後悔して。恥ずかしいし、もし現実にそんなタイトルの本があったら。彼女が「あなたが好きです」という本をシッと差し出したらどんな顔して受け取ったらいんだろうって。だってねえ、いや、そういう事じゃなくてって説明できます？ できないでしょう、恥ずかしくて(笑)

優しく微笑む栗木。

岩井 そんな妄想が頭の中をぐるぐる回って。何度も逃げようと思いました。でも待ちました。そして、そんなタイトルの本は無かったんです。少なくとも五年前のその時代には

栗木 良かったですね

岩井 ええ、本当に。そして彼女は、本を二冊と葉を一つ、僕に渡しました。

栗木 葉ですか

岩井 はい。小っちゃい押し花がついた。彼女が自分の本に挟んでるのを見た事があって。

それをくれたんだと思うと嬉しくて。それから少しずつ少ずつ親しくなって、結婚しました。翌年にはカリンが生まれて。本当に幸せでした。二人で力を合わせて、この子を幸せにしよう。立派に育てようねって約束したんです。僕は精一杯働いた。妻と子供にもっともって幸せになってほしかったから。家庭をないがしろにしたつもりはありません。たまの休みには三人で遊びに出かけたりもしました。でもそんな生活が急に壊れてしまっって。知らないおばさんが突然家に怒鳴り込みに来たんですよ。私の妻が息子と不倫をしたって言うんです。それも妻の方から誘ったって。息子はその誘いに乗って、そのせいで、息子も婚約者も、人生無茶苦茶になったって言うんですよ。何言ってるんだコイツはって思いましたよ。だってあり得ないでしょ？ 仮にそれが本当でも相手の親が、男の方の親が乗り込んで来ますか？ 本人が来るならまだしも。これは完全に狂ったお婆さんの侵入だと思って警察を呼ぼうとしました。でも妻は謝ったんですその人に。ビックリしました。ああいう時、頭が真っ白になるってのは本当です。何にも言葉が出ない。ようやくお婆さんが帰って、妻は僕に謝りました。何度も何度も。そして、寂しかったって言うんです。自分たちの為に働いてると分かっていても、寂しかったって。何を言ってるんだと思いましたよ。僕の精一杯を無駄にして、むしろその精一杯が悪いだなんて。女って、何てズルい、汚い生き物なんだって思いましたよ

栗木 岩井さん

岩井 僕ね、カリンには、約束を破ったり人を裏切ったりしない、誠実な女性になって欲しいんです。

…でもアレですか？ モテるんですか？ カリンは

栗木 え？

岩井 その、蓮くんとか翔太くんとか？ キャツキャツキャツとじゃれ合って

栗木 ああ、モテますかねえ。翼くんや大輔くん。大和くんや亮くんにも良く誘われますし。あとお

岩井 何だそれっ、モテモテじゃないですか！

栗木 はい

岩井 そうかあそうなんだあ。何だろ。妻だと腹立つけど、娘だとそんなに腹が立たない。ちよつと誇らしいぐらいだ

栗木 と言っても子供ですからね。淫らな交友関係ではありませんので

岩井 当たり前だよ

栗木 ……

岩井 (苦笑し)女はけしからんと思っけていても、娘も立派に男心を弄んでいるんだ。四歳なのに。全く、育ててやれよ朝顔っ、一緒に！

栗木 大丈夫ですか？

岩井 大丈夫です。でもマサル君は許してくれましたよね、カリンを。偉いなあ。器が大きいよ。

…僕もあの時、許すべきだったんでしょうか？ もっともつと妻の話を聞いてやるべきだったんでしょうか？ そしたら……すいません。あなたみたいな人にする質問じゃないな

栗木 え？

岩井 だって、あなたモテるでしょう。浮気なんかされそうにないもん。振られたこともないでしょう

栗木 ありますよ

岩井 いや、ない。告白だったことないに決まってる。自分から言わなくても相手の方から言い寄ってくる。そんな人に分かるはずないもん。(笑)坂本さんもアナタに気があるんじゃないかな

栗木 何言ってるんですか

岩井 だって、レイジさんって下の名前だ

栗木 アレには僕も戸惑ってます

岩井 あと、あの慰め方。感心しましたよ。実に自然で、女心を知り尽くした身のこなし

栗木 やめてください

岩井 僕には何十年かかってもマネできない。素晴らしいっ！

栗木 岩井さんっ

岩井 すいません。モテない男の愚痴です。聞き流してください。娘を連れて帰ります。よく言って聞かせますよ。約束を守れ。人の心を弄ぶな。モテるからってイイ気になるんじゃないぞって

岩井、鞆を取り、帰ろうとする。

栗木 岩井さんっ、失礼ですよ。僕だって人並に辛い経験ぐらいあります。失恋もするし、告白もできなくて後悔したり…そういう事だってあります。さっき言ったこと、撤回してください

岩井、しばらく立ち尽くしているが、向き直ると深々と頭を下げる。

岩井 すいません。もう随分経つのにいつまでも引きずって。先生にまで八つ当たりして…自分が情けないです。男手一つで立派に育てるなんて言いながら、僕は、本当は不安でしょうがない。こんなんで、ちゃんと父親としてやっていけるのか、本当は不安で不安でしょうがないんです

栗木 (岩井に近づきながら)そんなことないですよ。岩井さんは立派にやっています

岩井 やってません

栗木 やってますよ。仕事が終わったらいつでも走ってお迎えに来て

岩井 昔、陸上部だったんで走るのが苦じゃない。それだけです。娘には汗臭いって嫌がられます

栗木 手作りのごはんを毎日食べさせてあげるんですよ

岩井 まだ一度も美味しいと言ってもらったことはありません

栗木 デパートのオモチャ売り場で何時間もカリンちゃんに付き合っつて。耳のついたカチューシャまでつけて

岩井 買うお金が無かったから売り場で済ませようと思っつて

栗木 洋服だって子供用のファッション誌を何冊もチェックして

岩井 自分で作ろうとしたけど無理でした

栗木 この間はデイズニージーでアリエルと記念写真を撮ってあげたんですよね？貝殻の前で三人でこんな感じでポーズを決めて！

岩井 ホントはアリエルと二人で撮りたかったって怒られました！何故そんなに詳しいんですか僕たちに
栗木 好きです！岩井さんっ

岩井 ……

栗木 カリンちゃんが入園した時からずっと。お迎えに来る、アナタの笑顔を見るのが楽しみでした。
カリンちゃんがパパのことをドジだマヌケだと言いながら話してくれるのが本当に楽しみでした。
絶対に言うまい。心の中に仕舞って、カリンちゃんが卒園したら忘れよう。そう思っていました。
でも無理です。何も言わずに後悔したくない。これっ（紙切れを岩井に）

岩井 え…

栗木 僕のメアドです。辛い時には連絡してください。できる限りお力になります

岩井、もらった紙切れを開いて見ている。しばらくそのままの二人。

岩井 ありがとうございます。…でもスイマセン！…色々、色々言っときながら何ですけど、本当に
何ですけど、今気がつきました。それでも僕は、女性が好きなんだと思います

栗木 ……

岩井 本当にごめんなさい。人の心を傷つけちゃいけないとか、そんなこと言っときながら、チャンチャラ
おかしい。(ごぶして腿を打ちながら) あー偽善者だ。俺はっ。俺はっ

何度もごぶして腿を打つ岩井。栗木、それを止めようとするが、岩井は栗木から逃れつつ更に腿を打つ。

栗木 大丈夫大丈夫。そんなことない、そんなことないですから。ちよつとやめ、やめて下さい岩井さんっ

坂本の声 岩井さあん！

栗木、岩井の手から紙切れをもぎ取る。坂本がカーテンを開けて入って来る。子供という様子。

坂本 どうしたんですか？

栗木 何でもないです

坂本 岩井さん、二人のおフネ、見に行きませんか？

岩井 ああ

カリン 行こうよ！

岩井 カリン、うん、行くよ。…行っても、いいですか？

栗木 どうぞ

岩井 本当に申し訳ありません！(深々と頭を下げる)

栗木 いいですからっ、っ、っ、っ、っ、っ、っ、っ、っ、っ、っ、っ、っ

坂本 (自分の鞆を取りつつ)レイジさんも

栗木 あ、そうですね。」「片づけてから行きませーす

坂本、カリンと手をつないで去る。岩井も出て行くこうとするが、去り際でまた栗木に頭を下げる。

栗木 もっいいですから早くっ

岩井も去る。栗木、コップのコーヒーを飲み干すと、テーブルと椅子を整え、掃除を始める。

ふと、七夕の笹に目をやる。そしてまた掃除を続ける。七夕様の唄を歌いながら。溶暗。

■第二話 『No Regret No Life』

【登場人物】

須藤 カオリ 絵本作家

シオン 絵本の主人公 冒険家

ミチコ カオリの親友。そして元担当編集者

季節】冬 一月中旬

音楽。そして激しい波の音。パツと明るくなるとそこは須藤宅のリビング。セーラーとショートパンツ。ブーツを履いた少女、シオンが椅子の上に立ち、テーブルに片足をかけて舵を取る仕事。左肩に狸のぬいぐるみ、ポンタ。右手には風見鶏？の様なパペットもしくはそれ風の人形が付いた手袋。鶏の名はチヨロリン。須藤カオリがノートにペンで何か書きつけながら物語を語る。

カオリ 危機一髪。幽霊船から逃げ出したシオンちゃんは、急いで帆を上げ、自分たちの船を走らせます。けれど、風はびゅうびゅう吹き、波はドンドン高くなり、船はグラグラと揺れました

シオン 早く元の航路に帰らないと。チヨロリンー！モナカナモ島はどこ？

チヨロリンが、シオンの頭の上って風向きを伺い、降りて来るとシオンの耳に囁く。

シオン ありがとう！

シオン、必至で舵を取ろうとするがとても力がある。後方を振り返るシオン。

カオリ シオンちゃんが後ろを振り向くと、霧の中に、あの、大きくて不気味な客船が見えました

シオン ダメだ。まだ追いかけてくる

カオリ 客船の上に広がる真っ黒な雲。その中から「待てえ」音がさんぞお」と、幽霊たちの声が聞こえます。波を蹴散らして、幽霊船は、どんどんどんどん、シオンたちの船に近づきました。

ポンタが思わず叫びます。『シオン、追いつかれちゃうよー！』
その時、大波がシオンちゃんの船に襲いかかりましたっ

大波の音。

シオン キャーッ！

カオリ 船はグラリと大きく揺れました。波しぶきを浴びて、シオンちゃんもポンタもチヨロリンもびしょ濡れです。でもシオンちゃんは負けません

シオン ポンタ、チヨロリンー！しっかり！

カオリ シオンちゃんは左へ十時の方向に舵を取りました。北から吹く風が、大きく帆をほらませます。波にもまれながら、それでも船は進みました。幽霊船は少しづつ、少しづつ遠ざかってゆきます。

シオン もうちょっと。もうちょっとだよみんな。頑張ろう！

カオリ すると目の前に明るい光が見えてきました。波がキラキラ光ってシオンちゃんたちを呼んでいます。黒雲は後ろへ遠ざかり、幽霊船はその中へ吸い込まれていきました。やっと魔の手から逃れたのです

シオン ふう、良かったあ

カオリ 波の音が、ザザーツザザーッと優しく疲れをいやします。安心したらお腹すいたね』とポンタが言いました

シオン あ、見て！

カオリ 港町が見えてきました。沢山の船が泊まっています。楽しい音楽と人々の笑い声も聞こえます

シオン よしっ。ここで一休みしよう。ポンタ、チヨロリン

カオリ シオンちゃんは船を岸につけ、港へ降り立ちました。その港は…さてさて、どんな名前がいいかなあ

シオン 名前？

カオリ うん。港の名前。もしくは町の名前？

シオン そうだねえ

カオリ (ポンタの声で)お腹すいた。お腹すいたよお

シオン ちょっと待ってよ

女の声 ねえ、これ食べていい？

シオン え？

女の声 ねえ、これ食べていい？チンスコウ

シオン チンスコウ。チンス港でいいんじゃない？ 港の名前

カオリ チンス港？ ええー商品と同じ名前はちょっと…

大きなお腹をしたミチコが台所からやって来る。手にチンスコウとコップを持っている。

ノートを閉じるカオリ。するとシオンたちは奥のソファの方へ行ってしまった。

ミチコ ねえ、食べていいの？ダメなの？

カオリ いいよ

ミチコ ありがとう。小腹すいちゃってさ。コメンね仕事中に

カオリ ううん。ちよつとビックリしたけど

ミチコ (食べながら)結構会ってなかったもんね。何年ぶり？

カオリ 優奈ちゃんが生まれた時だったけ？

ミチコ え、その後も会ったんじゃない？ 初詣に行った帰りだったかな。二年振りぐらい？

カオリ そうだったけ。…何か月？

ミチコ 六か月

カオリ おめでとー

ミチコ ありがとう

カオリ 大丈夫なの？

ミチコ 何が？

カオリ そういうの食べても。前は食べなかったじゃん

ミチコ ああ、一人目の時はね。神経質になってたから。もう二人目になると気にしてもしよがねっかって。だって無理だもん添加物ゼロなんてさあ。何にでも入ってるよ。調味料とかも。きりがないもん

カオリ そっか。そうだよな

ミチコ そうだよ。あでもお酒とか飲んでないから。コーヒーもあんま飲まないし

カオリ ふーん

ミチコ …しかし誰のお土産？この季節に、沖繩？

カオリ 送られて来たの

ミチコ 沖縄から？

カオリ そう。コータ君のお母さんから

ミチコ コータ君って、あのコータ君？

カオリ うん

ミチコ まだ付き合いあるんだ

カオリ ううん。全然会ってない。コータ君もコータ君のお母さんとも

ミチコ …そうだよ

カオリ 何か今、沖縄に居るみたい

ミチコ コータ君？

カオリ コータ君のことは書いてなかったけど、お母さんは沖縄みたい

ミチコ ふーん。で、いきなりチンスコウ？

カオリ 命日に届いた

ミチコ え、これだけ？

カオリ いや、お香典と一緒に

ミチコ だよ

カオリ あと、手作りのティッシュカバーと、ドアノブのカバーが入ってた

ミチコ 何で？

カオリ わからない

ミチコ …変なの。食べちゃったよ

カオリ 木田さん、どうしてた？

ミチコ うん。何かスッキリしたみたいだった。まさに立鳥後を濁さずって感じ？デスクも綺麗に片付いて

カオリ あの木田さんが？

ミチコ そうだよ。いつつもユミの山だったのにさあ。カオリと久しぶりに飲みたいって

カオリ ああ

ミチコ なかなか顔出してくれないって、すねてたよ

カオリ 前からそんなに行っていないし

ミチコ まあ、斎藤が来てくれるんだから、ワザワザ行くこたないだろうけどさ。

木田さんね、退職したら長野に住むんだって。奥さんと

カオリ へえー

ミチコ だからさ、忙しいとは思うけど、その前に一回ぐらい付き合っただけだよ

カオリ うん

ミチコ 順調？ 仕事

カオリ うん。一応ストーリーは三分の二ぐらいできたんだけど…

ミチコ それ？(ノートを指す)

カオリ うん

ミチコ 見ていい？

カオリ …いいよ

ミチコ、ノートを開いて読み始める。するとシオンたちもソファからやって来て一緒にノートを覗き込む。

ミチコ 懐かしい字だなあ

カオリ 見飽きた字でしょ？

ミチコ いやいや、先生の手書きの文字を読めるなんて大層なせいでござえやす

カオリ その先生に文句ばかり言ってたのはどこの誰

ミチコ すいません。お仕事でしたから。すごいよねえ、みんな知ってたもん。ウチの保育園にもあるよ。

優奈も、優奈の友達もすっかり好きみたい。ママ友にも、フアン、いっぱいいる。

カオリ・ シオン いやいや

ミチコ 聞いてみたかったんだけどさ、ポンタを狸にした魔女ってどこにいの？ 一回も出て来ないよね？

カオリ うん

ミチコ (笑)子供たち、勝手に想像してるよ。魔女は、シオンちゃんに勇気のブーツを売りつけた古道具屋のおばさん！とか。チヨロリンが魔女で、シオンとポンタがこれ以上仲良くなならない様に狸にした！とかさ。チヨロリン、超腹黒説。

二人、笑う。シオンとポンタがチヨロリンを覗き込むと慌てて首を振るチヨロリン。

ミチコ あと、シオンのお姉さんが魔女って説もあるね

カオリ ええ？

ミチコ だって、冒険に行ってもいつつも目的地に着けないじゃん。

勇気のブーツが脱げてシオンちゃんはおとなしい女の子に戻っておウチに帰る。するとお姉さんが暖かいスープを作って待っていてくれて、シオンちゃんはそれを飲んで、暖かいベッドで眠るのです！

カオリ で、何でお姉さんが魔女なの？

ミチコ さあ。帰って来て欲しいから？ま、そういう説もあるの。あ、こういうのもある。元々魔女はいない。ポンタも最初から狸。シオンちゃんの事が好きでホントは人間だって嘘をついてる。ポンタ片思い説

カオリ (笑)ちょっといいね

ミチコ でしょ。私が考えた

カオリ 何だよ

二人、笑う。

ミチコ 何か、揉めてんだって？

カオリ ……え？

ミチコ 斎藤もいてさ、ちょっと話したのよ。どうしたもんかかってボヤイテた。…終わらせたくないの？

ミチコと一緒に、シオンたちもカオリを見ている。カオリ、ミチコの手からノートを取って閉じる。

しむしむという感じでソファへ戻るシオンたち。

カオリ このシリーズでやりたいこと、まだいっぱいあるし

ミチコ ネタがたんまり

カオリ そう

ミチコ じゃあ続編にしなくてもいいじゃん。それ、シオンちゃん無人島へゆく「パート2」

カオリ …シオンちゃんの新作読みたい子、いっぱいいると思っし

ミチコ うん。そうだね。でも売上部数は四作目がピークだったって斎藤が言った

カオリ …

ミチコ ネタのストックを生かしつつ、別のキャラクター設定に変更するのもありなんじゃない？

カオリ 勝手だよな

ミチコ は？

カオリ アタシ、一作目書いた時、シリーズ化する気なんて無かった。一作に思いを込めて、それで終わらせるつもりだった。推薦図書になったからって、シリーズ化提案したのはそっちじゃん

ミチコ そうかもしないけど。ていうかそんな時もう私いなかったし、分かんないけどさあ

カオリ 続ければ続けた分、思い入れも深くなるの。理解できないだろうけど。

売れるか売れないかだけだもんね。出版社は

ミチコ 売れるかどうかは大事だよ。生きてんだもん。こっちもアンタも。仕事なんだから

カオリ 分かってるよそんなこと

ミチコ ごめん。でもさ、本当に続けたいと思ってる？まだまだシオンちゃんを書きたいって思ってる？

カオリ、黙っている。言葉を待っているうちにモゾモゾし出すミチコ。

ミチコ ごめん。ちょっとトイレ借して(去る)

カオリ、再びノートを開く。その傍らに飛び込んで来てカオリと肩を組むシオン。

シオン チンス港では何をやる？

カオリ あ、チンス港になったんだ。そだね、まず食糧を調達しようか

シオン オッケー！何買おつか。(ポンタとチヨロリンと相談しつつ)パンね。あとチーズでしょ。ミルクも。うんうん、お砂糖もね。スモークサーモンにピクルス。オッケー。分かった、ピーナッツもね。それから果物も欲しいな。果物は何がいいと思う？

カオリ リンゴとかオレンジかなあ。日持ちする物がいいけど。でも、あんまりいっぱい積めないよ

シオン ムー、そっかあ積めないかあ

ポンタ、チヨロリンと一緒に悩むシオン。突然、チヨロリンがシオンの頭の上に入り、前方をうかがう。そして体をブルブルっと震わせて降りて来るとシオンの耳に何かささやく。

シオン チヨロリンの体内磁石によると、モナカナモ島はここから南南西に十三キロ。すぐ出発すれば、明日の朝には到着するって

カオリ 明日？そんなに近くまで来てるの？

シオン うん。モナカナモ島の匂いがここまで届いてるんだって

カオリ ホントに？どんな匂いだろう…

チヨロリンが再びシオンの耳元で何か囁く。

シオン チヨモナカジャンボの匂い

カオリ チヨモナカジャンボ？

シオン そう！モナカナモ島では、木の枝にチヨモナカジャンボが沢山実ってるの。だからそんなに食糧いらんないの

カオリ ダメだよ、アイスだけじゃ。もっと色々食べないと

シオン 大丈夫。他にも果物とか木の実がいっぱいあるって。魚もたくさんいるって。ていうかさうして

カオリ え

シオン それでは、モナカナモ島へ向かって、しゅっぱーっ！

シオン、椅子に乗る。カオリもペンとノートを手にして座る。穏やかな波音。

カオリ シオンちゃん、寒くない？

シオン んーちょっと寒い。でも大丈夫

カオリ チンス港で上着買ったことによっか

シオン えーいいよ。買ってないもん

カオリ そういう事にすんのよ

シオン 大丈夫。だって常夏の島だよ、モナカナモ島は。薄着でへっちゃらだよ

カオリ また勝手に決めて

シオン 早く着かないかなあ。きつとすぐく楽しいところだよ。美味しい物がいっぱいあって、見たこともない花がいっぱい咲いてて、きれいな鳥が飛んでると思う。チョウチョもいっぱいいるね、きつと。

カオリ ゴキブリもいっぱいいるかもね

シオン ゴキブリはいないよ。いないことにして

カオリ ホントにいいところかなんて分からないのよ。果物も木の実も食べられないかも。毒があるかもしれないよ。見たことない花は、すぐくでつかけて人間を食べちゃうかもしれないし、他にも怖い動物がいっぱいいるかもよ。無人島なんだから。誰も行ったことないんだから。何が起るか分からないんだから

シオン 怖い動物ってどんな動物？

カオリ え？…それは分かんないけど

ポンタとチョロリンが口々にシオンに何か話しかける。笑うシオン。

シオン 何それ、アハハハッ。ポンタの考えた動物はね、ポメラニアンにそっくりで超かわいいの。でもね、尻尾の中にも顔があって、そっちは超凶暴なの。鋭い牙でガブガブって噛みつくんだって。アハハハハッ。チョロリンが考えたのはムーミンに出て来るニョロニョロみたいなやつ。地面からいっぱい顔を出して狙ってるの。普段は土の中で見えないけど、実は足にバネがついててね、獲物に向かってぴょんて飛びかかるんだって。一斉に。それでみんなで血を吸うの。チョロチョロチョロチョロ。チョロチョロ吸うからチョロチョロだって。超怖い(笑)

カオリ 笑いごとじゃないでしょ。危ないの。未開の地なんだよ。もっと怖い生き物だっているかもしれないよ。行ったら最後、二度と帰って来られないかもしれないんだよ。それでもいいの？行きたいの？

シオン …… 行きたい。スターボード、テン！

シオンが舵を取る。船が傾く音。

カオリ ダメだよ。帰ろう。モナカナモ島なんてきつと良いところじゃないよ！

シオン 大丈夫。ポンタは力持ちだし、チヨロリンは体の中に磁石を持ってる。あとはシオンの知恵で何とかなる！

カオリ 絶対無理。一緒に帰ろう。お姉さんが暖かいスープ作って待ってるよ。暖かいベッドで眠れるよ

シオン いい。モナカナモ島は常夏だからずっとあったかい

カオリ 何もかもいい所なんてないの。そんな天国みたいな所、この世にはない。絶対後悔する！

シオン 後悔ならもうしてるよ

カオリ え？

シオン 船の旅。航海

カオリ ダジャレ言ってる場合じゃないでしょ！ 帰ろう。お姉さんと会えなくなってもいいの？

シオン カオリンも一緒に行こうよ。モナカナモ島で一緒に暮らそう

カオリ …… え

ザバーンと大波の音

シオン うわあ……

波に続いて水洗トイレの音。ミチコがトイレから戻って来る。ノートを閉じるカオリ。

シオン、舌打ちをしてポンタたちとソファアへ戻っていく。

ミチコ ああースッキリした。ホント、ゴメンね。仕事中に押しかけて

カオリ ううん

ミチコ (帰り支度しながら) あ、そうだこれ(小さい箱をテーブルに木田さんから。退職祝いの返礼品

カオリ でもアタシ何もしてないよ

ミチコ 知らないよ。渡りつて言われたんだもん。(モノマネして)須藤さん、このペンで新しい作品書いてくれるといいなあ、ウハツハツハツってまた意味なく笑った。これからは一読者として、須藤先生のまだ見ぬ作品世界に期待してます。だって。

カオリ ……

ミチコ 覚えてるっアンタを会社に連れてって、初めて作品読んでもらったの、木田さんなんだよ。名前も知られてない、バイトしながら描いてるアンタを、デビューさせたのも木田さん。企業だからさ、そりゃあ利益は追及するよ。でもそれだけじゃないから。齋藤と良く話し合ったら？ あ、そっいえば何か言ってたけど、断ったの？ プロポーズ

カオリ いや、断ったんじゃないよ、もうちょっと待ってって。…えー、ミチコにそんな事まで

ミチコ まあアイツ馬鹿だからね。ま、イイ意味でも。馬鹿正直っつーか。もーワってなると細かいこと考えられなくなるから。全然悪気ないしね。タチ悪いよ(笑)

カオリ ……ごめんね

ミチコ えー？ いやいや。私もっ何とも思っていないから。結婚してるし

カオリ そうだよ。ミチコはもう幸せだもんね

ミチコ ああ、結婚＝幸せってこと？ やっすいイメージで言ってくれるなあ

カオリ え？

ミチコ 甘いよ。結婚したってヤナと一杯あんだから。二世帯住宅イイねとか言ったださ、それでも毎日顔合わせるし、しょっちゅう来るし、お義母さん。まあ子供の面倒見てもらえっからママすってるけどさ。ママ友だっつて、ニコニコ付き合ってるけど嫌なヤツいっぱいいるからね。旦那は旦那で子煩悩なパパさんねえなんて言われっけどホントは浮気してっからね

カオリ ……嘘

ミチコ ホントだよ

カオリ お子さん生まれるの？

ミチコ ずっと前からじゃないっ。この子が出来るより。気づかれてないと思っただけでバレバレ

カオリ 別れるの？

ミチコ え？ 別れないよ。別れてる場合じゃないじゃん。子供いるし。生まれるし

カオリ でも嫌じゃないの？

ミチコ 嫌だよ。当たり前でしょ？ だから毎日復讐してる

カオリ え？

ミチコ 夜ね、旦那が寝入った後に、髪の毛抜いてんの

カオリ えー

ミチコ (額の生え際を指し)「この辺から毎日ピンセットで四、五本づつ。起きないように気を付けながらスリルあるよお。もしさ、育毛剤とか使い始めたなら、こっそり中身入れ替えて全然効かなくしてやろうと思ってるの

大笑いするカオリ。ミチコも笑う。

カオリ 悪いなあ〜

ミチコ どころが。こんぐらいやってもチャラになんないよ

カオリ まあ

ミチコ 何か虚しくなってきた。ごめん無駄話して。帰るわ

帰り支度するミチコ。

カオリ ミチコ、後悔してる？

ミチコ え？

カオリ 斎藤さんから身を引いたこと。それで今の旦那さんと結婚したこと、後悔してる？

ミチコ ……してる。でもほとんどそんな暇ないっ。どっちでも一緒だよ。誰と結婚してもしなくても。何やつても後悔する。斎藤と結婚しても相当後悔したんじゃない？ (笑)ごめん。別に脅しに来たんじゃないの。むしろ結婚すりゃあいいのになって思ってるのよ。どっちに転んでも後悔するから、もっと気楽に考えたら？ (携帯を見てやべ、こんな時間だよ。ウチの方終電早くてさあ。もうホントあんな山奥に家建てんじやなかったよお (去ろうとする))

カオリ あたし後悔してる。ずっとずっと後悔してる。あの時何で電話に出なかったんだろうって。留守電から声聴こえてた。すごく心細そうな声だった。なのに、自分のことではいっばいはいいになって。あの時、電話に出て、帰っておいでって一言言ってたら……
怖い。シオンシリーズ、やめちゃったら、もう一回あの子を殺すことになるんじゃないかって

ミチコ 死なないよ

カオリ 作り話だから？

ミチコ 違うよ。何で死ぬの？アンタの本、いろんなところにあるじゃん。保育園にも幼稚園にも図書館にも。いーっぱい置いてあって、いーっぱいの子供たちが読んでんだよ。

そしたら生きるじゃんシオンちゃんは。その子たちの中でずーとずーと生きるじゃん。

(木田のモノマネ)本は、世の中に出たらもう作り手だけの物ではありません。読む人みーんなの物ですよ。ウハッハッハッハ。……自惚れんなよ

ミチコ 帰っていく。ややあつて、カオリ、ミチコのコップを片づけて台所へ去る。戻って来て立ち尽くしているが、おもむろにノートを開き、書き始める。強い風と波の音。シオンが前へ走り出て来る。

シオン ウワー——ッ

カオリ 荒れ狂う波は、船を木の葉の様にくるくる回し、飲み込み、そしてまた新しい波へと吐き出します。ポントは帆についているロープを握りしめ、船が倒れない様に踏ん張ります。チヨロリンも雨に負けないように、必至で方角を見ようとします。けれど二人とも、強い風にあおられてうまくいきせん。シオンちゃんの手も、力が入らなくなってきました

シオン いけない。このままではモナカナモ島から遠ざかってしまっ

チヨロリンがシオンの耳に何か言う。

カオリ 『ア』を見てー』『とチヨロリンが叫びます。その時、三人の目の前に黒い大きな島が現れました。

島の上にも黒い雲。そしてたくさんのカラスが飛んでいます。雲は唸り声を上げ、長い手を伸ばしてシオンたちを引きずり込もうとしています

シオン あれは

カオリ そうです。あれは幽霊船の巢。暗黒島。シオンちゃんの船は航路からすっかり外れてしまったのです

シオン くそお…

カオリ そしてその時、これまで見たこともない大きな波が！

大波の音。カオリもシオンも悲鳴を上げて椅子から転げ落ちる。シオンはすぐに立ち上がり

シオン ハード・ア・スターボード！ 南南西に進路を取れっ！

船が傾く音。右へ右へと進路を変えていくシオンたち。

カオリ ダメよ勝手に！

シオンを止めようとするカオリ。それを振り切つて逃げるシオン。しばしの攻防の末、カオリがシオンを捕まえる。するとシオンの右手、チョロリンがカオリの手からペンを奪った。船の揺れにあおられて座り込んでしまうカオリ。シオンはペンを右手にしっかりと立ち、力強く語り始める。

シオン 船は、幾つもの波を突き抜けて、南南西へと進みます！ポンタ、しっかり綱を引け！絶対に放すんじゃないぞ！チョロリン、方角を見て！これで間違いはないっ？この波を乗り越えれば、必ず、必ず我らのモナカナモ島が見えてくる。行けーっ！

舵を取るシオン。大きな波の音。カオリの悲鳴と共に暗くなる。荒波が次第に凪いで来る。静かになっている。シオン、カオリの手を取って立ち上がらせ、前方を指さす。カモメが鳴いている。

シオン 見て

カオリ あれは…

シオン モナカナモ島だよ。いい匂いがする。ほら、木にいつぱい、チョロモノカジャンボが突ってる。果物もいつぱい。…サンゴ礁だ。魚もいつぱいいる。キレイだねえ

カオリ …行くの？シオンちゃん

シオン、うなづく。

シオン カオリンも一緒に行く？…どうする？

カオリ どうしよう。どうしたらいいかな。私…

間。突然ブザーが鳴り始める。

カオリ 何これ

シオン ダメだ。定員オーバー。誰か降りないと

カオリ ええっ。だつてずっと乗ってたじゃん。今までみんなで乗ってたじゃん

シオン カオリン、降りて

カオリ 嫌だよ。降りたら溺れちゃうよ。泳げないもん。帰れなくなっちゃうよ！

シオン 分かった。じゃあ私たちはここからボートで行くね

カオリ え、ボート？ そんなのあんの？ え、そんなの書いてないよっ。ねえちよっとちよっと

シオン、カオリが騒いでいる間にどこからか紐のついた台車を持って来る。ブザー音が止む。

シオン（台車に乗り）カオリンっ

カオリ ……待って。置いてかないで

シオン 大丈夫。その船に乗ってれば帰れるよ。あのね、カオリンにお願いがあるの。私たちがモナカナモ島に着いたら、ポンタの魔法を解いてあげて

カオリ え？

シオン 私、知ってるよ。ポンタに魔法をかけた魔女は、カオリンでしょ？

カオリ ……そうだよ。だってポンタは悪いことをしたんだから

シオン もういいの。今まで一緒に冒険して、いっぱい助けてくれたから。だからもういいの。私ね、ポンタが人間に戻ったらポンタと結婚する。そして一緒に暮らすの。

カオリ ダメだよそんなの。また嘘つくかもしれないんだから。裏切られるかもしれないんだから

シオン 大丈夫！そんな時はそんな時っ

カオリ ……もう、帰って来ないの？

シオン、うなづく。

カオリ ……寂しいよ。カオリン、一人になっちゃうよ

シオン 一人じゃないでしょ？お姉ちゃんは

カオリ ……

シオン 私、そこにもいるし。（カオリのノートを指す）だから大丈夫。だからサヨナラ！

カオリ シオリっ

シオン サヨナラ——

台車に乗ったまま引っ張れるように去っていくシオン。

カオリ シオリっ、ダメダメダメッ、行っちゃダメー待って。続き書くから。続きを…アレ？

ノートに続きを書こうとするがペンがない。ない、ペンがない」と机の下を探したり。でもない。再びブザー音が鳴り始める。

カオリ 何で？もう一人しか乗ってないじゃんっ。何で定員オーバーなのよ！

ブザー音、何度か鳴ると最後にインターフォンの音になる。

カオリ？

ミチコがコンビニのレジ袋を持って走り込んで来る。息があがっている。

ミチコ…びっくりした。何かあったのかと思った…

カオリ…ええ？

ミチコ 何回鳴らしても出ないから…居ないのかと思ったら開いてるし…てか鍵かけないの？かけたら？

カオリ…ごめん。…ちょっと、ペン探してて

ミチコペン？なくしたの？

カオリ…うん

ミチコじゃあこれ使えば？(木田からの箱をカオリの方へ)

カオリ あ、そっか。え、帰ったんじゃないの？

ミチコ 帰ろうとしたんだけどさ、引き返して来ちゃった。すごいよ外。雪

カオリ ホントに？

ミチコ うん。こんくらい積もっててさ。靴に雪入ってびっちゃびちゃ。萎えちゃったもっ。今日泊まってる？

カオリ え…家は？

ミチコ 電話した。お義母さんに泣きついて。すいませ〜んで。ホント申し訳ないんだけどさあ、これから山奥に帰る勇気ないわあ。コメンお願いっ。まさか雪中放り出さないよね？妊婦だよ、一応

カオリ、笑い出す。笑いながらうなづく。ミチコも笑う。

カオリ お帰り

ミチコ ただいま

カオリ …違う。あたしも今、帰って来たんだ

ミチコ？あそう。お帰り。どこ行ってたの？コンビニ？でも会わなかったよね。アタシも居ただけだよ。
コンビニ袋を置き(鍋やんない？ 大した材料無かったけどさ、まあ二人だし。あ、斎藤も呼ぼっか。
まだいるんじゃない？

カオリ もう帰ったでしょ

ミチコ 電話してみてよ。準備するから

コンビニ袋を持って台所へ行くらうとするミチコ。

カオリ いいよ。アタシやるよ

ミチコ いいー。あでもその前に…靴下貸してくんないかな？濡れちゃって

ミチコ、もう一度椅子に座って濡れた靴下を脱ぎ始める。

カオリ (笑)いいよ。隣の部屋のタンス。一番下。どれでも使って

ミチコごめんね。貸したくないよね靴下なんか。てか買い取るわ。新しいの買って返す！

カオリ いいよ！あげるよ靴下ぐらいい

ミチコ ホント？ ありがとう

ミチコ、濡れた靴下を手に隣の部屋へ去る。カオリ、それを笑って見送る。
一人になると、テーブルについて再びノートを開く。だが、シオン達はもう現れない。
贈り物の箱を開け、真新しいペンを取り出す。そしてノートのページをめくり、**「終わり」**と書いた。
遠くから穏やかな波音が聞こえて来る。そんな気がする。溶暗。

— 終わり —

◇戯曲に関するお問合せ先

三谷智子 mitanin78@gmail.com 迄メールで「連絡下さい」。